



男女共同参画コーナー

ひゅーら

～ Human Love ～

R6.4月

パートナーシップ制度が始まると？

網走市では、本年4月からパートナーシップ制度が始まります。皆さんはパートナーシップ制度がどんな制度かご存じですか？

【パートナーシップ制度とは】

現在の法律（民法）では婚姻が認められていない同性カップルを、夫婦と同等の“パートナー”と自治体が独自に認める制度です。

2015年に東京都渋谷区と世田谷区で導入されたことを皮切りに、全国各地の自治体で導入が進んでいます。人口カバー率は80%を超え、道内では11市7町がこの制度を導入しています。

【どんな影響があるの？】

パートナーシップ制度は、自治体が独自に定める制度で、法律上の婚姻と同じ効力はなく、遺産相続や税の配偶者控除などは受けられません。拡大される行政サービスは、自治体が独自の判断で対応できるものに限られます。しかし、これまで気持ちはパートナーの2人でも関係性が認めら

れていないために利用できなかったサービスが夫婦と同じように利用できるようになることで、当事者の日常生活における選択肢が拡大し、生きづらさの軽減や、公に関係性を認められることによる精神的な安心感に繋がることが期待されています。

【平等な社会への第一歩へ】

新しい制度に戸惑いがある方もいると思います。この制度を導入しても、当事者の方がそうでない方とまったく同じようにすべてのサービスを利用するのはなかなか難しいのが現状です。パートナーシップ制度の導入をきっかけに、より多くの方に多様な性について知ってもらい、個性を尊重できる社会になることを願っています。

網走市男女共同参画プラン推進会議編集委員



男女共同参画コーナー

ひゅーら

～ Human Love ～

R6.5月

災害時、支援物資に生理用品は必要？

能登半島地震の被災地には、自治体や企業などからさまざまな支援物資が届いています。その中の“あるもの”についてインターネット上で激しい議論が行われていました。

【話題になりましたが】

今年の元日、石川県能登地方で大規模地震が発生したことはまだ記憶に新しいと思います。ピークでは3万人を超える方が避難所へ避難し、3月上旬の時点でも、約1万人の方が避難生活を余儀なくされています。

さまざまな支援物資が避難所に届く中、インターネット上では生理用ナプキンの必要性について激しい議論が行われていました。

【生理ケアは欠かせない】

意見の中には、「1日1枚で足りる」、「男性にも何か配ってくれないと不平等」、「生理用品は優先度が低い」といった、配慮や理解に乏しいものが散見されました。

個人差はありますが、生理用ナプキンは2～

3時間に1回の交換をメーカーは推奨していますので、1日1枚は少なすぎます。生理用品は、感染症予防や避難所の衛生環境を保つためにも、水や食料と同じくらい大切なものです。

【多様なニーズに配慮するために】

女性への配慮が足りない背景には、防災や避難所運営担当者に女性が少ないことが挙げられます。

災害現場で必要な物資や環境のニーズは男女によって違いがあります。生理は女性特有のものであり、そのことに細やかな配慮ができるのもやはり女性です。多様なニーズに配慮するため、避難所運営や防災対策に男性も女性も参画することが大事だと思いました。

網走市男女共同参画プラン推進会議編集委員



男女共同参画コーナー

R6.6月

ひゅーら ~Human Love~

だれもが働きやすく、子育てがしやすい環境のために

新年度が始まり、2カ月が経ちました。皆さんは新しい生活に慣れましたか？小学生になった私の知合いの子も、毎日元気に登校しています。微笑ましさを感じながら、そこでふと、疑問が生まれました。

【核家族化が進む中】

小学校の低学年だと帰宅時間が早く、1人で留守番させるのも怖いので、誰かが一緒に過ごさないとはいけませんよね。核家族が主流の現在、共働き家庭やひとり親家庭の方は、どのように対応されているのでしょうか？

【現状について】

市街地区には、児童館や児童センターが5施設あり、そこに開設された放課後児童クラブで午後6時半まで預かってくれます。

しかし、郊外地区にはこのような施設はありません。働きたいけど働けず、子どもがある程度の年齢になるまで働き方を制限するしかないという方も見かけます。

【制度の活用を】

そこで、「子育てサポートセンター」を活用してみてもいかがでしょうか。

「子育てサポートセンター」は、子育ての支援を受けたい方、子育てをお手伝いしたい方の会員制の組織です。有料の制度ではありますが、生後6カ月から小学6年生までの児童を対象に、放課後の預かりや、保護者の外出時の支援などをしてくれます。平日のみならず、土日祝日も対応可能だそうです。

そういった制度をうまく活用して、子どもも保護者もみんなが安心して過ごしていけたらいいですね。

子育てサポートセンターの
詳細はこちら



QID1931

網走市男女共同参画プラン推進会議編集委員



男女共同参画コーナー

R6.7月

ひゅーら ~Human Love~

戦隊シリーズに見るジェンダー意識の変化

今は、「赤」＝「リーダー」＝「男性」ばかりではないようですね。

【戦隊シリーズの男女比】

日曜日の朝に放送されている戦隊シリーズをご覧になったことはありますか？5人ほどの戦士が悪の組織と戦い、平和を守っていくというものです。私が子どもの頃は、1人が女性で色はピンク。女性が黄色の戦隊シリーズもありましたが、リーダー格の赤色が女性のシリーズは見たことがありません。

【女性リーダーの誕生】

以前は、女性がリーダー的な立場に就くことは少なかったと思いますが、今は、多くの女性リーダーが活躍しています。女性の視点から新たな気付きやこれまでと違う考えが生まれるなど、会社や組織にとって多くのメリットがあるからだと思っています。

戦隊シリーズは、今も赤色は男性ですが、中

には、男性がピンクを担当する戦隊シリーズや、ピンクや白の女性隊員がリーダーとして活躍するシリーズもあったようです。長く放送されている戦隊シリーズでも、女性の活躍の場が広がっているのだと感じました。

【やりたい仕事や役割につける社会へ】

また、女の子が魔法で戦うアニメにも、男の子が登場するようになりました。これまで女の子向けの番組というイメージが強かったですが、女性を中心とした世界の中でも、男性が活躍できる場面もあり、多様な形があるのだと感じました。

こうしたテレビ番組を通して、将来、子どもたちが性別や色にとらわれず、好きなことや、やりたいことができる社会になっていくといいですね。

網走市男女共同参画プラン推進会議編集委員



男女共同参画コーナー

R6.8月

ひゅーら ~Human Love~

自分らしくいるために！～健康づくりが大切です～

ライフプランや、将来における自分の理想像を考えると、『健康であること』が何より大切です。

【いつまでも元気でいるためには】

近年では、特定疾病などの病気だけでなく、ソーシャルネットワークの発達や労働環境によるストレスから心の不調を訴える人も多く見られます。心も体も、いつまでも元気でいるためには、どうしたらよいのでしょうか。

【運動をして身体も心も元気に！】

まずは、ウォーキングやジョギングなど、日常生活で続けられる範囲で始めてみませんか？

身体を動かすことは、疾病予防だけでなく気分転換やストレス解消にもつながり、メンタルヘルスの不調の改善にも有効です。また、運動を習慣化することにより、ストレスに強い心身をつくることもできます。

【健康・体力づくりのために】

市内では、コミセンや総合体育館などで定期

的にスポーツ教室や健康体力づくり教室を開催しており、気軽に取り組むことができます。健康に関する悩みのある方は、保健センターで保健師などに相談することもできます。24時間いつでも、電話やチャットボットで相談できるサービス※もありますので、ぜひ活用してみてください。

※網走市民限定のサービスです。詳細は、「広報あばしり」の裏表紙や全戸配布の折込チラシをご覧ください。

今年の夏はオリンピックを見ながら、新しく興味を持ったスポーツに挑戦するもよし！講座に参加したり、仲間と一緒に運動してみるもよし！

いつまでも自分らしくいるためには、まずは健康であることが大切です。人生を豊かで生き生きと過ごすために、ライフステージに合わせた健康づくりを心がけましょう。

網走市男女共同参画プラン推進会議編集委員



男女共同参画コーナー

R6.9月

ひゅーら ~Human Love~

当事者としてさまざまな思いを発信するアーティスト
～性的マイノリティの壁～

ゲイであることをカミングアウトし、シンガーソングライターとして活動している方がいます。

【同性愛者として生きる中で】

クイーンフレディ・マーキュリー、エルトン・ジョン、ワム！のジョージ・マイケル。彼らは自分の性的指向が同性であることを公表したアーティストです。日本にも、性的マイノリティであることを公表して活動されているアーティストがいます。

その中の一人、“かつ江”さんは、ゲイであることを公表しながら音楽活動をしています。同性愛者として生きていく日常や、その中で生まれる苦しみや生きづらさを発信しており、当事者でなければ感じられないような思いや感情を歌詞にしながら、音楽に乗せ訴えています。歌からは、かつ江さんの思いが伝わり、当事者を取り巻く社会について深く考えさせられます。

【正しい認識が必要です】

かつ江さんが訴えているように、性的少数者の方は、今も多くの方々が、生きづらさを感じています。どのような性自認や性的指向を持っていたとしても、誰もが当たり前に平等に暮らしていくためには、性の多様性について正しい理解と認識を深めていくことが大切です。

網走市では、誰もが多様な選択ができる社会の実現を目指し、本年4月よりパートナーシップ宣誓制度の運用を開始しています。

かつ江さんが発信する作品をきっかけにして、こういった制度について理解を深めてはいかがでしょうか。

網走市男女共同参画プラン推進会議編集委員



男女共同参画コーナー

R6.10月

ひゅーら ~Human Love~

男女の役割意識を考える
～ジェンダーバイアスとホッカイエビ～

網走の初夏の味覚の代表格の1つ“ホッカイエビ”。実はこの“ホッカイエビ”は成長過程で「性転換」することをご存じでしたか？

【雄から雌に性転換?!】

私たちがよく「シマエビ」と呼ぶ初夏の味覚は、正しくは「ホッカイエビ」といいます。ホッカイエビは、始めはオスとして成長して繁殖に参加し、その後、メスに性転換して再び繁殖に参加します。以後、“オス”に戻ることなく、“メス”のまま成長します。“ホッカイエビ”は、雌雄それぞれの役割を1匹でこなしているのです。

【男女の役割って?】

人間にもオスとメス、つまり男と女といった「身体的な性別」の区分があり、ほとんどの生物は、繁殖をするために性別を必要としています。ですが、それ以外の場面で、男女の役割は必要なののでしょうか？

「男は仕事、女は家庭」、「男性は主要な業務・女性は補助的業務」などのように、「男性ならこうするべき」「女性ならこうするべき」といった、性別を理由として役割を分ける固定的な考え方があります。誰しも、得意なことや不得意なことがあるのは当たり前のことで、「男だから」とか「女だから」といった性別を基準とした理由で可能性を奪ってしまうのではなく、それぞれが持つ個々の適性や能力から、出来ること出来ないことを知り伸ばしていくことが大切です。

誰もが性別などの条件にとらわれず、自分の能力を発揮することができる環境づくりこそが必要なのではないでしょうか。

網走市男女共同参画プラン推進会議編集委員



男女共同参画コーナー

R6.11月

ひゅーら ~Human Love~

「面倒くさい」は危険?!～自分を大切にできないセルフネグレクト～

今日は疲れたから明日やろう、と思うことはよくあることです。しかし、生活する上で必要なことを、面倒だから「やらない」と放置しすぎていませんか？

【～キャンセル界限】

お風呂に入ることが面倒だから入浴をやめてしまう「風呂キャンセル界限」、疲れていて作って食べるのが面倒だからお菓子で空腹を満たす「ご飯キャンセル界限」など、通常行う行為をやめてしまう人々を指して「～キャンセル界限」と呼ぶことがあります。「面倒くさい」と感じることは誰にでもあると思いますので、この言葉に、少なからず共感できる人も多いのではないのでしょうか。

【面倒くさいを放置しないで!】

面倒くさいから「やらない」と放置しすぎると、生活を維持する能力や意欲を失い、自身の健康や安全を損なう「セルフネグレクト」になってしまいます。セルフネグレクトは、「自己放任」あるいは「自己放棄」と訳され、悪化すると健康面や生活が破綻するなど大きな影響

が表れます。自分は違うと思っていても、予備軍や、軽度のセルフネグレクトの場合もあります。セルフチェックを行い、状況を把握し対策をすることが大切です。

【セルフネグレクトを防ぐには】

セルフネグレクトは、自身の健康や安心に対し、無頓着や無関心であることが原因で起こるため、本人が気が付かないことも多いです。もし、周囲の人に異変を感じたら、個人で対応するのではなく複数で温かく見守り、支援をしていくことが重要です。

特に、生活環境が変化するときには、不安やストレスからその傾向になりやすいです。そんなときは無理をせずゆっくり休むことが大事。どんなときも自分にとっての良い加減を探しながら生活してみましょう。

網走市男女共同参画プラン推進会議編集委員



男女共同参画コーナー

R6.12月

ひゅーら ~Human Love~

女子のスカートは絶対？～変わりゆく制服事情～

「女子はスカート、男子はパンツ」と、無意識に思い込んでいませんか？多様化が進む中、学校の「制服」はどうあるべきでしょうか。

【制服が始まる時期】

そろそろ新年度の準備が始まる時期になりましたね。新小学生は、ランドセル選びや、みんなで受ける初めての授業など、ワクワクドキドキの気持ちに。新中学生は部活動や科目別の授業など、環境の変化により一層身が入ることでしょう。さらに、中学校がこれまでと比べて大きく変わるのは、毎日好きな服を着ていた小学校とは違い、「制服」があるということです。多くの学校では、男子は学生服、女子はセーラー服などを着用する決まりがあります。

【制服の果たしてきた役割】

明治時代に軍服を元に男子の制服ができ、その後、女子の制服ができました。制服は、貧富の格差を感じることなく学べることの象徴であり、学校への帰属意識が高まるなどの役割を担ってきました。その後、男子は富国強兵を支える存在として強くな

くましく、女子は当時の日本の教育理念であった「良妻賢母」として、男女別々の制服はそれぞれに求めるイメージを象徴したものになりました。ジェンダーレスが重視される現代でも、多くの学校で男女で異なる制服が残っているのが現状ですが、そのことが心の負担になる子どももいます。

【自由な選択ができるように】

最近では、男女問わず、スラックス制服やスカートを選ぶことができるようになり、人によって感じ方が異なる暑さや寒さを解消できるよう、多様な組み合わせができる制服もあるようです。また、高額な制服を見直し、安価で動きやすいものを採用する学校など、制服も時代に合わせて変化してきているようです。

みんなが着たいものを着て、自分らしい素敵な学校生活が送れるようになるといいですね。

網走市男女共同参画プラン推進会議編集委員



男女共同参画コーナー

R7.1月

ひゅーら ~Human Love~

意外と知らない！～育児休業制度について～

育児休業を取得したいけど、「詳しい制度を知らない」「取得の仕方がよく分からない」など、制度を活用することを諦めてはいませんか？

【育児休業制度に対する周りの声】

聞いたことはあるけれど「いまいよく分かっていない」。知ってはいるけれど「仕事を休むことで迷惑をかけてしまう」「取得する人が周りに少ない」などの理由で、なかなか取得に繋がらないという声を聞いたことがあります。

【制度について】

育児休業制度は、原則1歳未満の子どもを養育するために取得できる休業制度で、「育児・介護休業法」に定められています。保育所に入所できないなどの事情があれば、最長2歳になるまで延長可能です。勤め先の就業規則に育児休業に関する規定がなくても、育児中の労働者であれば、男女問わず誰でも取得できます。また、子どもが3歳になるまでの間であれば、短時間勤務や残業免除などを申し出ることができ、会社側はそれを拒めません。

近年では、男性の育休取得促進のため、「産後パパ育休（出生時育児休業）」制度が創設され、より

男性も育児に参加しやすくなっています。また、育児休業・産後パパ育休ともに、分割で休暇を取得することができるため、仕事の状況を見ながら調整することも可能です。

【積極的に制度の活用を】

令和7年度からは、3歳に満たない子を養育する労働者を対象にテレワークの選択ができることを企業へ努力義務化されたり、子の看護休暇や残業免除の対象となる子の年齢が引き上げられるなど、育児や働き方に関する制度の幅がさらに広がります。

どうしても女性の負担になりがちだったり、孤独を感じることも多い育児。夫婦どちらかに負担が偏らないよう、男性の働き方も見直されてきています。

育休の取得は当然の権利です。夫婦揃って健全に育児をするために、積極的に制度を活用しましょう。

網走市男女共同参画プラン推進会議編集委員



男女共同参画コーナー

R7.2月

ひゅーら ~Human Love~

障がいの有無にかかわらず誰もが活躍できる社会に向けて

最近、連続ドラマ『家族だから愛したんじゃない、愛したのが家族だった』を鑑賞しました。

【ドラマのあらすじ】

このドラマは、作家・岸田奈美さんの自伝的エッセーを元にしており、急逝した父、突然車いす生活になった母、ダウン症の弟、認知症の祖母とともに過ごす日々を描いたホームドラマです。ややもすると重い雰囲気になってしまいましたが、軽やかに進む展開や演出によって、笑って泣ける素敵な作品でした。

【役者として活躍する少年】

弟役には、実際に自身がダウン症である俳優・吉田葵さんが起用されました。連続ドラマのメインキャストとしてダウン症の俳優が抜擢されたのは日本で初めてだそうです。ダウン症は一般的に筋力が弱いとされ、知的な発達に遅れがあることが多いという特徴があります。そんな中でも、専属の俳優によるマンツーマンで

の演技指導などのサポートを受け、関西弁の習得やセリフの暗記など、障がいのない大人でも難しいことをこなし、現場は大成功したそうです。

【能力や適性に応じた役割を】

誰しも得意なことや不得意なことがあり、個人差があるのと同様に、「障がいがある」と言っても、その種類や程度はさまざまです。障がいがあるとの先入観で「できない」と判断するのではなく、サポートの仕方によって可能性を広げることができるものだと思います。多くの人が障がいを正しく理解し、社会参加できる場所を作ることが必要なのではないのでしょうか。

個々の持っている能力を十分に発揮でき、誰もが当たり前前に活躍できる社会になるといいですね。

網走市男女共同参画プラン推進会議編集委員



男女共同参画コーナー

R7.3月

ひゅーら ~Human Love~

鳥取県と豊岡市の成功事例に見るジェンダーギャップ解消の鍵
～女性活躍推進セミナーに参加して～

「ジェンダーギャップ解消で変わる組織と地域」をテーマとした講演を拝聴しました。講師がお話していた、鳥取県と豊岡市の取り組みを紹介します。

【ジェンダー差を排除した職員の配置】

地方都市では特に、若い女性の流出が深刻化しており、その背景として、女性が働きにくい環境や、女性の社会進出を阻む固定観念の存在が指摘されています。

そんな中、鳥取県庁は、ジェンダーギャップを解消するために職員の配置方針を変えたそうです。女性は配属先にかかわらず庶務の仕事ばかりで、管理職に就くことも無かったそうですが、ジェンダー差を排除し、やる気や能力に着目して配属先を決定することで、現在、鳥取県は都道府県庁で女性の管理職の割合が全国一となっているそうです。

【性差による様々な問題】

兵庫県豊岡市では、深刻な人口減少に直面する中、若者を呼び戻すためのまちづくりに取り組みました。男性の若者回復率が上昇しているのに対し、女性は低下していたからです。このジェンダーギャップの解消と、深刻な労働力不足の解消

には「女性の力を活用することが不可欠だ」と、地域の企業にジェンダー平等について説いたそうです。そのほか、クォータ制※や、コース別人事制度を取り入れ、ジョブローテーションの見直しを行ったところ、女性の管理職率が上がり、企業の生産性向上にも繋がったそうです。

※クォータ制：性別を基準に女性または両性の比率を割り当てる仕組みのこと。

【セミナーを受講して】

このような取り組みは、組織や地域に良い変化をもたらします。セミナーでは、どちらの事例も男女ともに働きやすい環境が整備され、若い世代の移住者が増加したと述べていました。

ジェンダー差ではなく、個人のやる気や能力に応じて、仕事を与えられる環境や仕組みづくりが大切なのだと思います。どんな職場でも、個々の能力を認め合って、気持ち良く働ける世の中になるといいですね。

網走市男女共同参画プラン推進会議編集委員